

第161回防衛調達審議会議事要旨

1 日時

令和元年11月20日（水）10時00分～12時05分

2 場所

防衛省庁舎A棟11階第1省議室

3 出席者

（委員）

河村会長、尾畑会長代理、西谷委員、林委員、藤川委員、星委員

（防衛省）

防衛装備庁 宮本長官官房審議官、水野谷調達管理部長、淺野調達事業部長、松下
監察監査・評価官（事務局）

阿部統幕首席後方補給官、陸幕装備計画部長代理装備計画部装備計画課補給管理班
長、大力海幕装備計画部長、坂本空幕装備計画部長

4 議題

（1）随意契約に係るサンプリング調査審議（平成30年度海上自衛隊補給本部）

（2）1者応札・1者応募案件に係るサンプリング調査審議及び仕様書等に係るサン
プリング調査審議（平成30年度海上自衛隊）

（3）次回の日程等

5 議事概要

（1）随意契約に係るサンプリング調査審議（平成30年度海上自衛隊補給本部）

平成30年度に海上自衛隊補給本部が締結した契約の中から、サンプリング調
査審議の対象として委員が抽出した「P-1用エンジンの信頼性確認間隔の延長
に係る役務（詳細分解検査）」の役務請負契約について審議を行った。

（契約の概要）

本件は、P-1用エンジンの信頼性を確保するため、所要の時間数を使用した
エンジンを詳細分解検査し、損傷の進行状況等を踏まえた使用可否判断を行うも
のである。

【事前調査における論点等】

① P-1用エンジンの信頼性確認間隔（VERT）の延長に係る事業の趣旨、詳細分解検査及び地上加速試験の内容・それぞれの関係性、今後の計画、オーバーホールとの違いについて説明されたい。

また、現在の信頼性確認間隔（VERT）に至るまでの延長の経緯（何時間に達したエンジンを対象にいつのどの検査・試験により何時間まで延長したかなど）を示した上で、オーバーホールを行う場合と比べた経済合理性を具体的な金額を示した上で説明されたい。

② 1,900～1,950時間のエンジンを対象とする合理性について説明されたい。

③ P-1の機体本体のオーバーホールとエンジンの信頼性確認間隔（VERT）の延長をどのように組み合わせる効率的な運用がなされているのかを具体的な例に基づき説明されたい。

【本審議】

事前調査の論点①から③について

（資料に基づき防衛省側から説明）

委：将来的に整備方式をオンコンディション方式（エンジンを機体に搭載した状態で検査・点検を行い、不具合が認められた時点で部品又はモジュール交換を行う方式）に移行するための検証を行うことが本事業の目的であるとのことであるが、通常の定期的なオーバーホールと異なり、故障があってはじめて処置することになる整備方式を採用することに不安を感じる。

防：実運用の中で性能を随時モニタリングし、当該モニタリングの中で基準を下回る事象が発生した時点で修理相当という判断がなされるため、故障があってはじめて処置するものではない。

委：オンコンディション方式に移行する際の基準となるエンジンの使用時間が定められているが、当該使用時間の根拠を説明されたい。

防：詳細分解検査を複数回行うことにより、ある程度、劣化損傷の伸展具合が数値として見えてくるが、その数値と製造会社が定めた上限値などを踏まえ、統計的に最適な時間を算出し採用している。

(2) 1者応札・1者応募案件に係るサンプリング調査審議及び仕様書等に係るサンプリング調査審議（平成30年度海上自衛隊）

【1者応札案件及び仕様書等に係るサンプリング調査審議案件5件】

- ① 軽油2号（艦船用）（免税）
- ② 軽油2号（艦船用）（免税）
- ③ 軽油2号（艦船用）（免税）
- ④ 軽油2号（免税）
- ⑤ RECORDER REPRODUCER, VIDEO 外（カタログ品）

【1者応募案件に係るサンプリング調査審議案件1件】

- ⑥ 艦艇の技術維持活動（艦船の部）

【仕様書等に係るサンプリング調査審議（複数者応札）案件2件】

- ⑦ X線テレビ装置, 胃集検診用（デジタル式）
- ⑧ カードリーダー, 非接触型

【事前調査における論点】

- ① 軽油2号（艦船用）（免税）
- ② 軽油2号（艦船用）（免税）
- ③ 軽油2号（艦船用）（免税）
- ④ 軽油2号（免税）

- ・（①～③について）当初、防衛装備庁における入札が不調になり、その後、海上自衛隊補給本部において契約する流れになったとのことであるが、海上自衛隊補給本部において不調にならず契約に至ったのは、防衛装備庁と海上自衛隊補給本部の予定価格の差以外に何か要因はあるのか説明されたい。（要因が予定価格の差のみであるならば、引き続き防衛装備庁において入札を続けても良かったのではないかと。）
- ・ 過去の契約実績（契約年度、品名、単価、数量、単位、総価、契約相手方、応札会社（事業拠点を含む）、応札金額、公告期間、履行期間、納地、出荷条件、出荷場所など）を示されたい。
- ・ 過去の他の同種製品の契約実績（契約年度、品名、単価、数量、単位、総価、契約相手方、応札会社（事業拠点を含む）、応札金額、公告期間、履行期間、納地、出荷条件、出荷場所など）を示されたい。
- ・ 想定される応札会社を示した上で、それぞれの精製能力と輸送能力（対応で

きる納地)を示されたい。

⑤ RECORDER REPRODUCER, VIDEO 外 (カタログ品)

- ・ 落札率が100%となっているが、予定価格の算定方法を具体的に説明されたい。(過去の実績を用いているのであれば、その実績内容などを含む)
- ・ 現在使用されているシステムは本件契約相手方が製造しているものであり、これまで他社が製造しているシステムへの代替可能性について検討してきているとのことであるが、これまでの検討結果を含め、現在の検討状況について具体的に説明されたい。
- ・ 過去の同種製品の契約実績(契約年度、品名、数量、契約金額、契約相手方、応札会社、応札金額など)を示されたい。

⑥ 艦艇の技術維持活動(艦船の部)

- ・ 多種類の艦艇、機器について横断的に行う必要があることから、1者応募となったと推察されるとのことであるが、多種類の艦艇、機器について横断的に行うことの必要性について、詳細かつ具体的に説明されたい。
- ・ 契約相手方である(社)日本造船工業会の実態(社員数、実際の業務の詳細(調査機能、基準策定機能、審議会運営機能など))を示されたい。

また、本件事業の外注先、外注内容、外注の流れ、外注金額について、過去の契約を含めた契約ごとに、契約年度、対象艦艇、対象機器、契約金額を示した上で具体的に説明されたい。

⑦ X線テレビ装置, 胃集検診用(デジタル式)

- ・ 仕様書には、キャノンメディカルシステムズ(株)、(株)島津製作所、(株)日立製作所の製品名が記載されているが、このうち、(株)日立製作所又はその販売会社が応札しなかった理由について説明されたい。
- ・ 過去の同種製品の契約実績(契約年度、品名、数量、契約金額、応札者、応札金額、納入された製品の製造会社など)を示されたい。
- ・ 本件契約の(株)島津製作所の応札金額を示されたい。
- ・ 海上自衛隊内や他自衛隊(自衛隊病院を含む)における調達と合わせて調達を行うなどのまとめ買いに係る検討状況について説明されたい。また、自衛隊病院の調達において、他省庁所管の病院組織とのまとめ買いは行われているか説明されたい。
- ・ 海上自衛隊内や他自衛隊(自衛隊病院を含む)における保守契約の状況を示した上で、保守契約に係るコスト縮減策を説明されたい。

⑧ カードリーダー,非接触型

- ・ 過去の同種製品の契約実績（契約年度、品名、数量、契約金額、契約相手方、応札会社、応札金額など）を示されたい。

【本審議】

- ① 軽油（艦船用）（免税）
- ② 軽油（艦船用）（免税）
- ③ 軽油（艦船用）（免税）
- ④ 軽油（免税）

委：1者応札を改善するための方策として、十分な公告期間を確保することであるが、本件のように年度末近くになってからの調達案件については十分な公告期間を設定することは難しいのではないか。

防：なるべく多くの会社が入札できるよう、法律で定められた公告期間に則って公告期間を確保していきたい。

委：本件のように短い時間の中での調達が多く見受けられる昨今の状況を踏まえれば、調達方法の工夫などが必要になると考えるが、何か工夫していることはあるか。

防：予定価格を超えない単価の入札者のうち、低価の入札者から順次公示数量に達するまでの入札者をもって落札者とする旨、入札公告に記載している。

委：本件はその特性上、市場価格の動向に影響を受けるものであると考えられるが、市場価格の動向以外に入札時期などが価格に影響を及ぼすことはあるか。

防：予定価格は前例価格を考慮しつつ、調達しようとする時期の市場価格のアップ率やダウン率などを考慮して計算している。

委：アップ率やダウン率などを考慮して計算したとしても、タイムラグが生じ、結果として、入札が不調になることがあるということか。

防：日々のデータを取るようにするなど、タイムラグを極力おさえようとしているが、折り合わないこともある。

⑤ RECORDER REPRODUCER, VIDEO 外（カタログ品）

委：1者応札が続く中、平成30年度からの入札において、契約相手方の応札価格が見積価格から値引きされていない経緯を踏まえると、同等品として他社の製品名を仕様書に記載することは、競争性を高めることになり、当該契約相手方に対しても一定の効果があると考ええる。

⑥ 艦艇の技術維持活動（艦船の部）

委：本件契約を行うことにより得られる効果が契約金額に見合ったものになっているかについて、よく見えない部分があるという印象を受ける。

防：設計段階で決められた当初の年間の整備作業に対して実績が出ているので、その実績を踏まえて、本件契約を適切に実施することにより、整備作業の適正化を図ることができる。また、ライフサイクルコストの面でどの程度の効果があるかについて、データを集めた評価を行い、それを繰り返し行っていく。

委：ライフサイクルコストを計算して効果を見ているようなものなのか。

防：そのとおり。

委：その効果をどのように測定し、これまでの本事業に係る契約がその効果にどの程度反映されているか、また、その効果をどのように評価しているかについてフォローアップ審議の際に説明されたい。

⑦ X線テレビ装置, 胃集検診用（デジタル式）

委：これまで海上自衛隊内においてはまとめ買いを行っているが、海上自衛隊以外の組織とのまとめ買いは更新時期の違いなどを理由に検討していないとのことであるが、医療機器などは異なる組織間でのまとめ買いを行うことにより調達価格が下がったという話を聞くので、海上自衛隊以外の組織とのまとめ買いについて、今後検討していくことが重要である。

⑧ カードリーダー, 非接触型

委：過去の契約においては物の購入とサポートライセンスを合わせて一つの契約としていたが、30年度からはサポートライセンスを切り離して別契約にしたとのことであるが、サポートライセンスを別契約にしたことにより、費用面でどのような効果があったのかについて具体的な金額を示した上でフォローアップ審議の際に説明されたい。

(3) 次回の日程等

次回は12月18日(水)の開催の予定。詳細については、事務局から後日連絡。